

所 報

<Shoho>

川崎市総合教育センター

〒213-0001 川崎市高津区溝口 6-9-3

TEL 044-844-3600

代表メール KEI30201@o.keins.city.kawasaki.jp

ホームページ [https:// kawasaki-edu.jp/](https://kawasaki-edu.jp/)

子どもの資質・能力を学校全体で育てる

川崎市総合教育センター 所長 鈴木 克彦



新型コロナウイルス感染症の影響をいまだに受けながらも、各学校では、子どもたちが豊かな経験を積み、確かな学力を育成できるよう、様々な工夫のもとで教育活動に取り組まれていることと思います。

その中での各校種における学習指導要領の全面实施です。感染症対策及び教育活動全般の再構築や教職員の業務の見直し等に取り組みながらも、あらためて重視したいことは、学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動・授業等の改善です。特に、各教科等で身に付けさせたい力が共通の3つの資質・能力に整理され、学校全体で子どもの資質・能力を育てる取組を容易にしました。

各教科等の学習でも、学校行事等の教育活動でも、学習や活動の内容、目的等について、それぞれ単独で捉えていたものを、共通の身に付けさせたい資質・能力を設定したり、学校教育目標を3つの資質・能力と結び付けて整理し、全ての教育活動で目指したりすることが行われているのではないかと思います。

10年ほど前の話です。ある中学校で行われた校内授業研究会に参加しました。1年生の理科の授業で、水溶液の濃度についての学習でした。授業の導入で、水と食塩を粒子のモデルで考えて濃度の概念を理解し、その後、濃度をパーセントで表すための公式が説明されて、後半は計算問題に取り組みました。授業後の研究協議には、理科の教員だけでなく学年の教員全員が参加しました。その協議中、ある教科の先生が「電卓使っちゃいけないの？」と質問しました。授業者の理科の先生は「1年生のうちにしっかり計算の力をつけておきたいんです。」と答えました。それを聞いて数学

の先生が「計算の力は数学でつけるから、理科では理科でしかできないことをやりなよ。」と言いました。協議に参加して、ステキな学校だな、と感じたことを覚えています。10年たった今では、中学校・高等学校でも当たり前な光景ですね。

子どもの資質・能力は学校全体で育成するものです。子どもや保護者・地域等とも共有して社会全体で育成すべきものです。学校や社会で育成すべき資質・能力という『ヨコ』の部分に明確にし、それを共有した上で、「この教科でしかできないこと」、この教科で身に付けさせるべき資質・能力という『タテ』の部分に明確にします。

『タテ』と『ヨコ』を、授業や教育活動において、全教職員が、そして子どもたちが意識して計画したり、取り組んだりすることが、学校全体で子どもの資質・能力を育てることにつながります。

そのためには、教職員がより同僚性を高め、子どもを主語にして授業や教育活動について語り合うことや、子どもたちが学校づくりに参画していけるような取組が大事です。その上で、各教科等において、「なぜその教科を学ぶのか」といった本質を含めて、育成すべき資質・能力をしっかりと身に付けさせることが必要です。

学習指導要領の趣旨を踏まえた授業及び教育活動の改善は、学校を、これからの社会を生きる子どもたちへの、本当の「学び」の場に変えることを期待していると言えるでしょう。

令和4年度『所報』第2号 主な内容

【巻頭言】

子どもの資質と・能力を学校全体で育てる…………… 1

【特集】かわさき GIGA スクール構想…………… 2・3
(情報・視聴覚センター、他)

カリキュラムセンター…………… 4

特別支援教育センター…………… 5

教育相談センター…………… 6



かわさき GIGA スクール構想

ステップ2の実現に向けて

令和3年度からスタートした「かわさき GIGA スクール構想」、今年度はステップ2として「一人一人の学びをつなぐ」を合言葉に、「既習や他者につながることで、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善ができ、資質・能力をより確実に育成する」ことを目指しています。夏季休業中には、合計10回にわたりさまざまなニーズに合わせた希望研修が行われました。大学教授や先進的な取組を行っている他都市の校長先生をお招きし、実践事例などを交えた質疑応答や、協力校の先生方のファシリテートによるワークショップ形式の研修が行われ、参加した先生方が積極的に話し合われる様子が見られました。研修後の感想からも、今後、勤務校や受け持っている学級においてどのように実践をしていくかを考え、夏季休業明けからの実践に向けて意欲的に取り組みたい、といった前向きな意見が多く見られました。



東京大学の特任助教の山本様による研修。市内小学校と共同して行った研究内容で、協力校の先生がファシリテートしました。

さらに研修だけでなく、推進協力校を中心に授業公開も積極的に行われています。そこでは実践事例の共有だけにとどまらず、いかにして端末を活用しながら子どもたちの資質・能力の育成に向けた主体的・対話的で深い学びへの授業改善へつなげていくかについて研究協議を通して話し合われています。

また、11月19日には川崎市教育委員会と NEC 通信システムとの共催で、「かわさき GIGA フェスティバル2022」を NEC 玉川ルネッサンスシティホールにて開催いたしました。タイピングの速さと正確さを競う「タイピングコンテスト」、川崎市に関するクイズにインターネット検索を駆使して答える「川崎検索クイズ」、NEC 通信システム社員による将来の夢につながる話が聞ける「教えてプロフェッショナル」などが行われました。事前にタイピングコンテストの予選会をオンラインで実施し、上位45名が会場に集まり、決勝大会が行われました。決勝大会に来られなかった参加者には、You Tube Live によるオンライン配信が用意され、会場と一緒にフェスティバルを楽しみました。参加者は、普段の学習で培われた情報活用能力を発揮しつつ、お互いの違いを認め合いながら、学び合うことができていました。



研修で端末を用いて、他校の先生同士で実践を共有する場面。活用場面をより具体的に共有することで内容を深めることができていました。



かわさき GIGA フェスティバル2022 では、日頃の学習で培われた情報活用能力を発揮する場面や、これからの学習への意欲を高めていました。

GIGA 端末の活用が進んでいます

カリキュラムセンター

一人一人が海外に住む外国語指導助手（ALT）とオンラインでつながり、英会話の練習をすることができます。この日は、自分が訪れた修学旅行の場所とおすすめしたい日本国内の旅行先について異なる ALT と7分間の会話を3回行いました。1人1台のGIGA 端末があるからこそ、授業で学んだ英語表現を生かして、海外のALT とのコミュニケーションに取り組むことができました。ALT と繰り返し会話することで、「英語が通じた！」という経験を得られ、一人一人の自信につながっています。

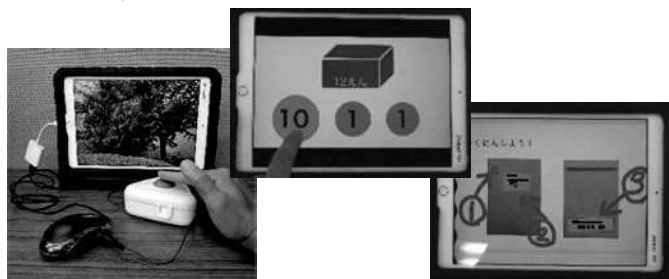


特別支援教育センター

特別支援学校では、様々な学習上生活上の困難を抱えた児童生徒が学んでいます。個々の実態に応じて、教材・教具や補助用具を工夫し、指導の効果を高めるようにしています。

コンピュータや情報通信ネットワークを有効に活用することで、数や文字を効果的に指導することができます。また、GIGA 端末を利用して、自身で工程を確認しながら学習に取り組む姿も見られています。

また、iPad のアクセシビリティやスイッチを活用することで、重度の障害のある児童生徒の意思表出やコミュニケーションのツールとしても GIGA 端末が使われています。



教育相談センター

各ゆうゆう広場に wi-fi 環境（モバイル wi-fi ルーター）を整備し、GIGA 端末の持ち込みが可能になりました。オンライン学習支援システムの「スタディサプリ」アカウントを所属校より貸与してもらい、そのアカウントを使用して、学習に主体的に取り組める環境を整えています。

当面の間は、広場での使用できる時間を指定し、各自で学習を進めていきますが、各学校でアカウントの貸与やGIGA 端末の持ち帰り等、ゆうゆう広場利用の児童生徒がスムーズに学びの場が広がるよう連携していくところです。また、学習の進捗や成果を所属校と共有できるようにするために、宿題配信機能や学習履歴モニタリング機能、

教科書対応表や単元テスト等、教員向け業務支援機能を利用した児童生徒の学習状況の把握や、1人1人の達成度に応じたきめ細かい支援を行っていくための体制も充実させていきます。



情報・視聴覚センター

かわさき GIGA スクール構想2年目はステップ2の実現に向け「一人一人の学びをつなぐ」を合言葉に、「既習や他者とつながることで、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善ができ、資質・能力をより確実に育成する」ことを目指しています。



各学校では、スプレッドシートを使った学習のめあてとふり返りを継続的に記録していく等の学びの積み重ねや、目的にあった思考ツールを選択したり、自分の考えを Jamboard にまとめたり、友だちがスライドやオクリンク上に表現したものを見比べ自分の考えを広げたり深めたりと、主体的で対話的で深い学びに向けた実践が行われています。

各教科等の学びを充実させるために、先生だけでなく子どもたちが GIGA 端末を使っていく様子がさまざまな授業で見られるようになってきています。

かわさき教育プランでは、基本政策Ⅱ施策1に「確かな学力の育成」とあり、すべての子どもが「分かる」ことを目指して、1人1台端末を最大限に活用しながら、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的にした学習活動の充実を図っていきます。

川崎市学習状況調査について

◆川崎市学習状況調査（川崎市学習診断テスト）の目的は何ですか？

【小学校】全市的な規模で児童・生徒の学習状況を調査することにより、学習指導上の問題点及び改善点を明らかにする。その結果を、各学校においては、今後の学習指導法の改善や教育課程編成の工夫等、児童の資質・能力の向上に役立てる。



調査結果は、学習指導の改善、児童生徒の資質・能力の向上に役立ちます。

【中学校】学習指導要領に示されている各教科（国語・社会・数学・理科・英語）の目標および内容の「基礎的・基本的な知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」について学習したものが、いかに生徒に定着しているかを全市一斉に学年ごとの同一の問題によって調査する。そして、その結果を診断し、今後の学習指導の改善に役立たせる。また、生徒自らが学習状況や学習課題の把握ができるようにする。

◆この調査をどのように活用しているのですか？

川崎市学習状況調査は、平成17年度から小学校は5年生を対象に実施され、中学校では昭和43年から全学年を対象に行われてきた学習診断テストの2年生を川崎市学習状況調査として実施されてきました。

教科（小学校：国語、算数、中学校：国語、社会、数学、理科、英語）と学習意識（生活や学習について）の調査を継続的に実施し学習状況を正しく把握することにより、児童生徒は自らの学習に取り組む態度の改善に生かします。学校は指導方法や教育課程の検証改善を図ります。また、教育委員会は全市的な課題を把握することにより、各学校を効果的・効率的に指導することや教育施策の検証改善に活用しています。

◆令和5年度からこの調査は、どのように変わるのですか？（今後変更の可能性もあります）

児童生徒・・・一人一人が自分自身の学習の取組を振り返り、課題を的確に把握し、自らの学習態度の改善・充実に生かします。

各学校・・・学校教育目標等で示した資質能力の育成に向けて、調査結果を分析し、個に応じた指導や学校（学年）での授業改善、教育課程編成等に生かします。

校長会・各研究会（研究部会）・・・教育委員会と連携して全市的な結果の分析と授業改善の具体的な手立て、個に応じた指導の手立て等を研究し、説明会や各研究会（研究部会）の事業等で教員に伝達いたします。

教育委員会・・・全市的な児童生徒の学習状況と経年調査することにより、学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ります。

学習指導要領、かわさき教育プラン、学校教育目標等で示された資質・能力の育成に向けて、児童生徒、各学校、校長会・各研究会（研究部会）、教育委員会のそれぞれが主体となり、RPDCAサイクルで進められるようにします。

★対象学年を小学校4年生～中学校3年生へと拡充します。

★令和5年4月 入学式翌週の火曜日～金曜日に実施予定

★同一母集団比較も可能となります。

同難易度で異なる問題を出题することにより、同一母集団（たとえば、今年度の4年生と来年度の5年生など）の結果を比較して分析が可能になります。同一母集団の変容を見ることで、さらなる児童生徒の学習改善や学校の授業改善などに役立ちます。

★調査結果を端末と連携します。調査結果を端末内の一人一人に応じた学習ソフトと連携させて、児童生徒それぞれの状況に応じた学習をすることができます。

これらのことから「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的にした学習活動のさらなる充実を図ります。

R	Research	検証
P	Plan	計画
D	Do	実行
C	Check	評価
A	Action	改善



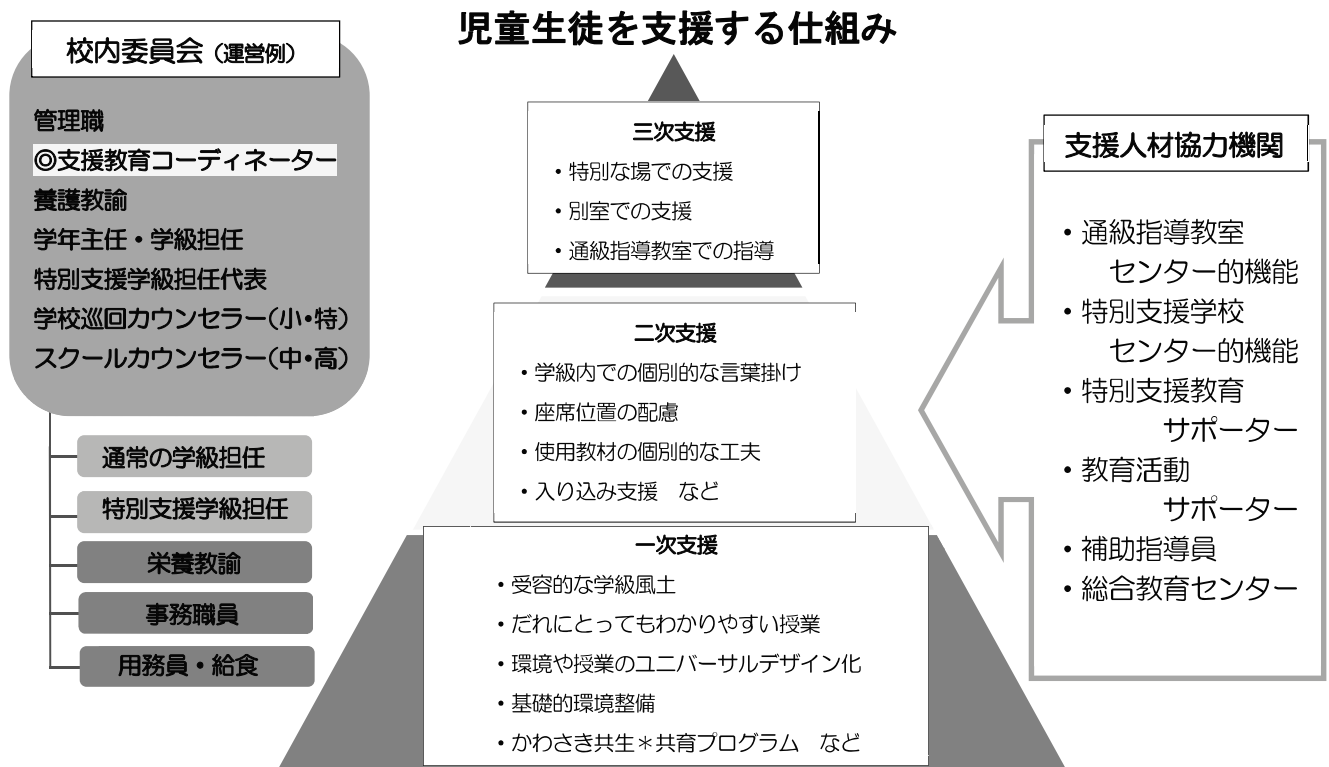
校内の支援体制づくり

学校には、支援教育コーディネーターがいます！！

川崎市では、障害の有無や生まれ育った環境に関わらず、すべての子どもが大切にされ、いきいきと個性を發揮できるよう、一人ひとりの教育的ニーズに適切に対応していく教育（支援教育）を学校教育全体で推進しています。

この支援教育を推進していく中心的役割となるのは、川崎市立の小学校・中学校・高等学校・特別支援学校すべての学校に配置されている「支援教育コーディネーター」です。本市では、従来の特別支援教育コーディネーターの機能を拡充し、小学校では児童指導や教育相談の機能を併せ持った児童支援活動の中核となる「児童支援コーディネーター」、中学校では教育相談の機能を併せ持ち、生徒指導担当と協働しながら、校内支援体制の中核を担う「支援教育コーディネーター」など、校種や機能の違いによって異なる名称を使用していましたが、今年度から「支援教育コーディネーター」という名称に統一しました。

多様化する教育的ニーズに適切に対応するため、学校全体で、在籍するすべての児童生徒に対して適切な支援ができる体制を作っています。さらに、小学校と中学校の「支援教育コーディネーター」が密に連携し、切れ目のない支援ができるように取組を進めています。



支援教育コーディネーターは、各学級担任からの相談状況を整理し、各学級担任とともに児童生徒理解を進め、必要に応じて「校内委員会」や「ケース会議」を開催し、学校内での支援体制の検討を行っています。

「校内委員会」は、全校での支援体制を確立し、支援を必要とする児童生徒の実態把握や支援の検討などを行うために設置されています。校内委員会で話し合った内容は、学校全体で共通理解を図り、有効に支援を行っていくようにしています。また「ケース会議」では、関わりのあるメンバーで情報共有を行いながら支援方法の検討を行っています。

特別支援教育センターでは、教職員が支援教育に対する意識を高め、より有効な支援が行えるように、発達障害の理解や通級指導教室との連携についてなど、様々な研修を実施しています。

ゆうゆう広場は、心理的な理由や様々な事情から不登校状態になっている小中学生を対象に小集団による体験活動や学習活動を通して状態の改善を図ります。子どもたちの心の居場所をつくとともに、子どもたちが心のエネルギーを蓄えるところです。最も大切にしていることはすべての子どもたちが「安全・安心」な生活を送ることです。落ち着いた雰囲気の中で子どもたちの成長を見守っています。

ゆうゆう広場 ～4つの願い～

「ゆうゆう」には4つの願いが込められています。ちょっと楽しんで、自分のペースで生活でき、周りにも自分にも優しくしながら、ありのままの自分になれる、という願いです。

① 遊々 ちょっと楽しめる場所

② 悠々 自分のペースで生活できる場所

③ 優々 自分にも優しくできる場所

④ YOU ありのままの自分になれる場所

ゆうゆう広場 一日の流れ

以下のように時程が組まれていますが、広場に通級する時間、退室する時間は子ども自身が決めます。家庭からの事前の連絡も必要ありません。子どもたちが興味を持てるようなプログラムを用意しています。

時間	活動内容
9:30～9:40	朝のつどい（あいさつ、連絡、お話など） 相談員（スタッフ）が、その日の予定を伝えたり、ちょっとしたお話をしたりして一日がスタートします。 
9:40～10:20	学習タイム（自主学習活動） 自分が学習したいものをおうちから持ってきて取り組みます。GIGA 端末やタブレットを持ってきて学習することもできます。困ったときは、相談員に相談できます。 
10:30～12:00	ふれあいタイム（グループ活動） （創作・表現活動／スポーツ活動・ゲーム／栽培・調理などの体験活動） 来室しているみんなで様々な活動を行います。その日の内容は、事前に配付される「月予定」で確認できるので、好きな活動を選んで参加することができます。 
12:00～13:00	昼食・休憩
13:00～13:40	ゆったりタイム（自主活動） 自分の好きなことに取り組むなど、思い思いにゆったりと過ごす時間です。卓球やビリヤード、カードゲームなどができます。 
13:40～14:00	1日のふりかえり（感想などを記入） その日の自分を振り返り、一言感想をプリントに記入します。自分で自分を褒めるような時間としています。 
14:00～15:00	マイ・タイム（個別学習活動・学習相談など） 自主的に学習する時間です。人数が少なく、静かな雰囲気の中で学習することができます。

☆この他に月に2回程度の校外学習などのイベントもあります。

活動の参加にはゆうゆう広場への登録が必要です。

登録申し込みダイヤル→（522-3534）保護者が申し込みを行います。

